

平成29年度 学校総合評価

1 今年度の重点課題に対する総合評価

(1)学習活動

- ・ 教科指導の充実を目指し、互見授業期間(1、2学期に各2週間)を設定して、授業検討会を実施している。特に学習指導要領の改定に向け、アクティブラーニングの視点から生徒の主体的・対話的な学びに力点を置く指導方法の情報交換を行っている。また、外部講師を招聘した教員研修や学校訪問を利用し、他校の授業を参観する機会を取り入れることにより、教員の意識も向上している。
- ・ 開設科目の学習内容や学習方法、評価方法をシラバスで示し、進路選択、科目選択に活用している。また、家庭学習が有効になされるよう、宿題や課題の質の向上を目指している。

(2)学校生活

- ・ 毎朝、駅頭や玄関前で正しい服装、挨拶の励行、遅刻の防止を呼びかけている。ねばり強く呼びかけることで、教員と生徒の人間関係を築きながら、規範意識の向上や生活習慣が改善されるよう努めている。
- ・ 今年度はスマートフォンの使用ルールやネットトラブル防止に重点的に取り組んでいる。生徒、保護者に啓発プリントを配布し、丁寧に説明して理解を求めている。段階に応じた一丸となった取り組みにより、一定の成果を上げている。

(3)進路支援

- ・ 1年時は「上級学校・企業見学」、2年時は「インターンシップ・進路研修旅行」、3年時は「企業見学・オープンキャンパス」などにより、学年に応じて進学意識や職業意識を高めている。また、保護者も参加できる進路ガイダンス、進路体験講座なども実施した。
- ・ PTAの協力を得て、3年生の就職希望者に模擬面接を実施した。また、進路体験講座や卒業生に聴く会などから得た情報を元に、各担任が個人面談を進め、進路指導に役立てた。

(4)特別活動

- ・ 町商工会とのタイアップにより、各部活動や生徒会は地域交流の場を得て、活発に活動している。また、社会福祉協議会から協力を得て、ボランティア活動の活性化を図っており、たくさんの生徒が参加し、リーダー的な存在として評価されている。様々な活動を通じて、将来も地域に根ざした活動を続ける人材と成ることを期待できる。

2 次年度に向けての課題と方策

(1)学習活動

目指す生徒像の共通理解のもと、授業の質の向上を目指し、アクティブラーニングによる有効な指導方法の工夫や具体的な教材の構築に努める段階となる。また、特別活動面での地域活動は定着しているが、総合学科としての特色ある活動として、各分野や課題研究等を通じた地域貢献を提案する必要がある。

(2)学校生活

教員間だけでなく生徒会と連携し、遅刻防止月間や服装、スマートフォンの使用マナーの改善を働きかける運動を企画し、全校的な取り組みとする。

(3)進路支援

明確な進路目標をもたせるため、地域、PTA、ハローワークなどとの連携を密にし、支援を受けられる体制を充実する。特に、1年時からの就業体験に向けて体制を確立し、2年時のインターンシップを充実させたい。

(4)特別活動

現在定着している地域活動において、企画・運営の段階から町の諸機関と関わりをもてるように働きかけ、諸活動を通じてプレゼン能力も高めたい。